

国際女性会議報告書

福島県国際女性教育振興会相談役
山崎捷子

日時 2022年12月3日 9:00~19:30
会場 三田共用会議所

厳重な入り口でのチェックがあった。

9時開会行事

最初に海外の有識者からのビデオお祝いメッセージで、ヒラリー・クリントン元米国国務長官をはじめとして、数人の海外の首相やUN Women 親善大使からメッセージがあった。

次に、主催者の代表として林外務大臣の挨拶、基調講演2名、その後、新しい資本主義に向けたジェンダー主流化について森まさこ（内閣総理大臣補佐官女性活躍担当）モデレーターで6名のパネリスト登場。日本からは小倉女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣（男女共同参画）、山田賢司外務副大臣、林伴子内閣府経済社会総合研究所次長が参加し、ジェンダーの問題はより良い社会づくりのために不可欠であると認識し、「ジェンダー主流化」を進めるための取り組みについて討論した。

分科会（11:15~12:45）

特別セッション「女性と地方」に参加。地方で暮らす様々な声を聴く。跡取り娘などユニークな話題もあった。

14:30~16:00「女性と防災」

5名のパネリストのうち5名が福島県関係の方でその一人は当会の相談役鈴木二三子。災害時における女性の活躍とともに性的被害がありそれをなくすことをテーマに議論した。また、当時2歳だった桜の聖母短期大学の学生はその後、周囲から差別的な言動を受けた事、これから自分たちはどうあるべきかを体験を交えながら話した。

当会の鈴木は震災から会として5冊の手記を出した経緯を話した。一般女性の手記を出したのは世界でもめずらしいと高く評価された。第3集目ができた時、ロスアンゼルスで震災の集会があり、そこに当会の会員が招待された時、日本語では日系の方でも「読めない」という声を聴いて、第4集は英語版を併記し、130か国の大使館に送った。その後、ドイツ国会図書館から全冊要望があり、送付した。それを聞いたドイツ大使が、ドイツ大使館でも全冊ほしいということになり、大使館まで代表3人でドイツ大使に手渡した。

池田静岡大学教授は防災関係に女性がいないう団体が多すぎることを指摘した。必ず、2割、3割と女性の参加を増やさないと、女性の声は届かないし、その時に必要なことが見落とされてしまうと話した。

16:20~17:10「クロージングセッション」

各セッションから報告があった。若い世代を育てるという意味で20代の説明者が報告した。

17:40~

パーティがあり、小池都知事も挨拶においでになった。

「福島の素材で、料理は大変おいしく、充実した1日を過ごした。ありがとう。」

今後「福島女性会議」をやろうという話まで出た。

令和5年2月14日

2022年12月3日国際女性会議WAW2022報告書

収 支 決 算 書

収入の部

項 目	決算額	備 考
自己負担額	13,994	@13,994×1名（山崎捷子）
会津若松市助成金	5,000	対象経費の1/2 ※上限ひとり5,000円
合 計	18,994	

支出の部

項 目	決算額	備 考
交通費	18,994	会津若松神明通～東京田町駅往復 @18,994×1名
合 計	18,994	